

令和3年度第2回小林市地域公共交通活性化協議会・地域公共交通会議 会議要旨

開催日時：令和3年10月21日（木） 14時00分～16時00分

開催場所：小林市役所 第1別館大会議室

出席者等：出席委員12名、代理出席5名、欠席委員1名、事務局3名

【会議要旨】 ※ □ 内は話者

1. 開会〔事務局〕

2. 会長あいさつ〔会長〕

新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いているが、今後も警戒が必要である。

前回同様、今回の会議は「地域公共交通計画」の協議となる。様々な意見をいただき、市民が使いやすい交通を実現できればと考えているので、ご協力をお願いしたい。

3. 議事

(1) 小林市地域公共交通計画の策定について

①地域公共交通の移動特性・ニーズ調査の結果について

【資料編1 市民アンケート調査】 【資料編2 JR駅利用者ヒアリング調査】

【資料編3 コミュニティバス及び福祉バスの利用状況・ニーズ】

【追加資料 現状に関する補足情報1】

<質疑>

〔Q. A代理〕

コミュニティバス・福祉バスの利用者等に類似点が多いため、統一した方がよいのではないかと推測される。資料編1市民アンケート調査について、外出先の地域分布を確認して、地域をまたいだ移動が多いのかどうか、現行のコミュニティ交通が各地区内で基本的に完結しているが地区間移動を今後検討する必要があるのか検証が必要ではないか。

資料編3コミュニティバス及び福祉バスの利用状況・ニーズについて、深草循環線、大出水循環線は上下方向での利用者数が対称的であり、運行パターンが生活パターンと合っていると推測される。南ヶ丘線は3便目の利用が無く5便目の利用のみなので、2便目と3便目の間が短すぎるのではないかと考えられる。

〔A. 事務局〕

福祉バスについては、60歳以下の利用者が少ないため、名称を含め利用料金・運行方法等をコミュニティバスと統一することを課題として抽出したところである。

コミュニティバス・福祉バスの路線見直しについては、今回の調査で詳細なデータを得ることができたため、さらに分析した上で、見直しを行いたいと考えている。

②地域公共交通の現状及び課題・取組の方向性について

【追加資料 現状に関する補足情報2・3】

【追加資料 地域公共交通の現状及び課題・取組の方向性】

<質疑>

〔Q. B委員〕

課題2公共交通の維持に係る財政負担の抑制とあるが、現状の公共交通を維持するためにはそれなりの財政負担は必要ではないか。グリーンシティこぼやしの寄贈によりコミュニティバス車両の更新等を行ったが、このように財源を確保することも必要では。

オンデマンド交通の検討について、11月に東京大学の松原先生が小林市に来られると伺っている。協議すべきではないか。

JR 小林駅南側駐車場が封鎖されている。状況を教えて欲しい。

JR 吉都線は地域間を結ぶ重要な路線である。現在、JR 九州にて赤字補填している。廃止となった場合、代替路線が必要になり、さらなる財政負担が生じる可能性があるため、存続対策が必要。

11月7日 JR 吉都線を利用したサイクルロゲイニングを実施する。九州初のイベントであり、JR 九州の協力に感謝。

〔A. 事務局〕

課題2公共交通の維持に係る財政負担の抑制について、路線等を減らして財政負担を減らすということではなく、人口減少・少子高齢化の社会において、税収等の財源が減少する中で、財政負担が大きくなるように、利用状況等に応じて改善すべきところは改善するという考えである。

グリーンシティこばやしによる寄贈は14人乗りバス2台購入に活用した。寄付額は1,200万円。東京大学の松原先生とは、来庁時に協議予定である。

〔A. 建設課〕

駅南駐車場について、夜間の騒音等により近隣住民から苦情があったため使用禁止としている。駐車場不足解消のためにも、近隣住民と開放に向けた協議を行いたいと考えている。

〔Q. C委員〕

鉄道は多くの人・物を運ぶのに適しているが、線路の補修等の固定費が多額となる。ダイヤを紙からデータだけにするなどコスト削減を実施している。鉄道も公共交通と言われるが、一方で上場して利益を求めなければならない面もある。日南線は災害により運休中。西小林の災害時には迅速対応をいただいた。今後も沿線の雑木対策等について引き続きご協力いただきたい。

〔Q. D委員〕

人口減少により利用者が減少する中で、現状の公共交通を維持するための対策が必要。路線の周遊情報（各地域の観光地など）をまとめて発行してはどうか。乗ることで楽しめるような利用方法を考えてはどうか。

災害時の代替路線については、情報発信してはどうか。

〔A. 事務局〕

新たに利用ニーズの掘り起こしが必要であり、路線の周遊情報について検討する。

災害時の代替路線や各交通機関の運行状況については、ホームページにまとめて掲載している。

〔Q. E委員〕

アンケート調査結果の若年層の回答が少ないことが現状を表している。若年層は不便と感じていない・関心がないからと思われる。商工会議所のアンケートでも困っていないという回答であった。三松地区では交通渋滞の問題があり、自家用車でなく公共交通機関を利用することで解消できないか。

コンパクトシティ化については、関係機関で連携して徐々にでも進めていく必要がある。

コロナの影響で大型店舗の撤退があり得る。撤退となったら人流が大きく変わるため、このような調査は今後も実施し、実態に合った見直しを適宜行う必要がある。

〔Q. F委員〕

高齢者はコミュニティバス・福祉バスに生活時間を合わせている。利用者の実情にあった見直しが行われればよいと考える。福祉バスは満足度が82.3%と非常に高い。

コミュニティバス・福祉バスの運行時間などもっとアピールして、利用者を増やさなければならない。

〔A. 事務局〕

実際に利用されている人からの満足度は高い。日常生活の移動手段として、運行されているだけでありがたいとおっしゃる方が多かった。

コミュニティバスの満足度については、学生の利用ニーズ（部活動後の帰宅時間等）に対応できていないという要因がある。

〔Q. G委員〕

車椅子でも乗降できるノンステップバスの存在を知らない人も多い。周知が必要である。

〔A. H委員〕

小林営業所では中型バス 7 台の内 5 台がノンステップバスである。しかし、宮崎方面は乗車数が多いため大型バスでの運行となり、ノンステップバスでの運行ができない。えびの・都城方面はノンステップバスで運行しているが利用者が少ない。

大型バスのノンステップバス購入は、県補助対象外であり、導入が難しいのが現状。

〔Q. B委員〕

J R九州より雑木の処理について、行政の対応をお願いする旨の発言があった、ぜひ対応いただきたい。

スノーピークより、J R九州・宮崎交通と協力して、生駒高原でイベントができないかと提案をいただいた。連携してイベント等できれば小林市のブランド力向上にもなると思われるので、よろしく願いたい。

〔A. 建設課〕

雑木の処理については、路線沿いは民間同士の土地であるため、行政が対応するのは難しい。基本的には発災後の対応となる。

4. その他

〔宮崎交通〕コミュニティバス、路線バスの現況について

○コミュニティバス（利用実績は別添資料に記載）

○路線バス 前年と比べる乗車数は回復しているが、一昨年（コロナ前）までは戻っていない。

乗車人数前年比（一昨年比） 宮崎空港線 107%（74.8%）、都城線 117.2%（82.1%）、
京町線 104.6%（84.7%）、祓川線 95.2%（87.3%）

次回開催：11月25日（木）10：00～

5. 閉会〔事務局〕